

武庫川流域委員会からの提言について

兵庫県知事 井戸 敏三

- 1 平成16年3月から約2年半にわたり、本委員会だけでも49回、ワーキングチーム会議などを含めると200回を超える会議を開催し、熱心に審議を重ねていただいた。松本委員長を始め、委員各位のご労苦に感謝する。
- 2 千叡ダム等の利水ダムの治水活用など従来の発想にとらわれない斬新な提案や、環境やまちづくりの視点からも提案があり、河川計画のみならず、今後の地域づくりなど県政推進の参考となる部分が多い。
- 3 多角的な視点からいただいた提言については、技術的・経済的検証を加え、実現性および効果について、さらに専門的に検討していく。
- 4 特に目標流量(治水安全度)、流域対策の実現性とその効果量、既設ダムの治水利用の実現性とその効果量、新規ダムの環境へ及ぼす影響などについて、河川審議会に諮問して技術的、経済的検証・精査を加えるとともに、県庁内の横断的な部署、流域関係市等からなる「総合治水対策連絡協議会(仮称)」と既存ダムの管理者である水道事業者等からなる「既存ダム活用協議会(仮称)」を設置して、提言いただいた各施策の効果的実現方法について検討する。
- 5 これらの検討を踏まえ、流域市、流域住民の意見も聴きながら、河川審議会でも議論していただいて、流域住民の生命と財産を守る河川管理者の責任を果たすべく、総合的な治水対策を実施するための河川整備基本方針・河川整備計画を策定していく。